

一 次の詩を読んで後の問いに答えなさい。②0点

この気もちはなんだろう
 目に見えないエネルギーの流れが
 大地からあしのうらを伝わって
 ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
 声にならないさけびとなってこみあげる
 この気もちはなんだろう
 枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
 よろこびだ しかしかなしみでもある
 いらだちだ しかもやすらぎがある
 あこがれだ soしていかりがかくれている
 心のダムにせきとめられ
 よどみ渦まきせめぎあい
 いまあふれようとする
 この気もちはなんだろう
 あの空のあの青に手をひたしたい
 まだ会ったことのないすべての人と
 会ってみたい話してみたい
 あしたとあさってが一度にくるといい
 ぼくはもどかしい
 地平線のかなたへと歩きつづけたい
 そのくせこの草の上でじっとしていたい
 大声でだれかを呼びたい
 そのくせひとりで黙っていたい
 この気もちはなんだろう

問一 この詩の ①文体・形式、②内容上の種

- 類を次から選び記号で答えなさい。
- ア 口語定型詩
 - イ 口語自由詩
 - ウ 文語定型詩
 - エ 口語散文詩
 - オ 叙景詩
 - カ 叙情詩
 - キ 叙事詩
 - ク 写生詩

②点×2

問二 次の表現技法はそれぞれ何か。次から選び記号で答えなさい。②点×2

- ①「この気持ちはなんだろう」を何回も使っている。
 - ②「新芽が心をつつく」
- ア 直喩
 - イ 倒置法
 - ウ 体言止め
 - エ 反復法
 - オ 対句法
 - カ 擬音語

問三 心をつつく の「つつく」の意味を、次から、一つ選び記号で答えなさい。②点

- ア 刺激する
- イ 破壊する
- ウ 解放する
- エ 防御する

問四 心のダムにせきとめられ とあるが、

①何が心のダムにせきとめられているのか。詩の中の言葉で簡潔に答えなさい。②点

②また、「ダム」という語を用いたのは、ダムのどんな様子を表現するためか。一つ選び記号で答えなさい。②点

- ア 発電所のもつ近代的な様子
- イ コンクリート製で強固な様子
- ウ 山奥にひっそりとある様子
- エ 流れ込む水を蓄えている様子

問五 この気持ちはなんだろう という表現から感じ取れる作者の思いとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。②点

- ア 本心を隠している。
- イ 投げやりになっている。
- ウ いろいろを思いにとまどっている
- エ みんな同じ悩みをもっている

問六 この詩の作品名と作者名を漢字で正しく書きなさい。②点×2

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

古い家はますます遠くなり、故郷の山や水もますます遠くなる。だが名残惜しい気はしない。(A)自分の周りに目に見えぬ高い壁があって、その中に自分だけ取り残されたように、気がめいるだけである。西瓜畑の銀の首輪の小学英语の面影は、もとは鮮明このうえなかったのが、今では急にぼんやりしてしまった。これもたまらなく悲しい。母と宏児とは寝入った。

わたしも横になって、船の底に水のぶつかる音を聞きながら、今、自分は、自分の道を歩いているとわかった。思えばわたしと閑土との(B)距離は全く遠くなったが、若い世代は今でも心が通い合い、現に宏児は水生のことを慕っている。せめて彼らだけは、わたしと違って、互いに隔絶することのないように……とはいつても、彼らが(C)「一つ心でいたい」のために、わたしののように、無駄の積み重ねで魂をすり減らす生活をともにすることは願わない。また閑土のように、打ちひしがれて心がまひする生活をともにすることも願わない。また他の人のように、やけを起こしてのほうずに走る生活をともにすることも願わない。希望をいえば、彼らは新しい生活をもたなくてはならない。わたしたちの経験しなかった新しい生活を。

(D)希望という考えが浮かんだので、わたしはどきどきとした。たしか閑土が「香炉と燭台」を所望した時、わたしはあい変わらずの偶像崇拜だな、いつになったら忘れるつもりかと、心ひそかに彼のことを笑ったものだが、今わたしのいう希望も、やはり(E)手製の偶像にすぎぬのではないか。ただ(F)彼の望むものはすぐ手に入り、わたしの望むものは手に入りにくいだけだ。

まどろみかけたわたしの目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでくる。その上の紺碧の空には、金色の丸い月がかかっている。思うに希望とは、もともとあるものとも言えぬし、ないものとも言えない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。(G)歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。

問一 この作品の作者を漢字で答えなさい。

- ア 絶望 イ 孤独 ウ 後悔 エ 軽べつ

問二 (A)とあるが、その心境は次のどれに最も近いですか。一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 二人の住んでいる場所の隔たり
イ ルントーの家と「わたし」が乗っている船との間
ウ 過去の思い出と現在との間の時間
エ 二人の境遇や気持ちの違い

問三 (B)とあるが、「距離」とは、次のどれを指すか。一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自分なことなどくだわらずに純粋な気持ちで仲良しになっていること。
イ 自分をわきまえてはいるが、子どもなので忘れてしまうこと。
ウ 親たちの気持ちをよく理解して親しくするように努めること。

問四 (C)の「一つ心」とは、どういうことですか。一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自分一人でこっそり信仰している神仏
イ 自分一人の力で手に入れた努力の結果
ウ 自分だけで正しいと信じている勝手な考え
エ 機械を用いず自分の手で作りあげた木の土の像

問五 (D)の時「わたし」はなぜ、「どきどき」としたのか。その理由を文章中から探し、三十字以上、四十字以内で書きなさい。

- ア 作者 イ ホンル ウ シュイション エ ルントウ

問六 (E)とは、ここではどんな意味で使われていますか。一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 高価でも一部の人が買うことができる品物だから。
イ 神仏が恵み深く願いを叶えてくれるから。
ウ 身近にあるささいなものだから。
エ 親しい仲間が力を貸してくれるから。

問七 (F)については各問いに答えなさい。

問八 (G)とは、どういうことですか。答えなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A ミメティスムという語がある。ある種の動物は身を守るために環境の変化に応じて外見を変化させる。日本語では擬態と訳されているようだが、保護色はその代表である。ミメティスムのもうひとつの意味は、無意識に他人のまねをしてしまう^一ということである。人間の場合、このようなミメティスム行動は、主に衣服を通して行われる。ただし、動物と違って、人間の心はかなりわがままにできている。他人と同じでは気がすまないという、反ミメティスム的な衝動ももっている。

B 文明社会の中で、衣服が、文化となり、経済活動の重要な構成要素となり、あるいは社会秩序の不可欠の要素となったのは、人間がミメティスムと反ミメティスムの二つの傾向を併せもっているからである。しかし、この二つの傾向が自由を実現されるようになったのは、実はそんなに古いことではない。他人と同じ格好をしてもよいし、他人と異なる格好をしてもよい。そのことについてだれからも規制を受けない。このようにだれもが自分の好きな格好ができる、いわゆる「服装の自由」は、生活規範(エチケット)の階層化された身分制社会の枠組みとは相いれないものだったからである。ヨーロッパの場合、服装の自由が公に認められ、明文化されたのはフランス革命のときである。

C さて、身分制社会が消滅し服装の自由が確立されたときに、どんな状況が出現したのであるか。各人が気ままな服を着た自由で多様な豊かな光景が出現したのかといえ、まったくそうはならなかった。多くの人々にいつのまにか類似の服装をさせてしまう、流行という名の新現象が発生したからである。しかも、この新現象は、生理的には必要がないと考えられるものまで買わせてしまう、そういう心理的な強制力を備えた動きなのであった。

D 流行現象がフランス革命以前になかったわけではない。十八世紀はじめのバリでは、「衣服がすたれる速さは、花のしおれるのより速い」とか、「無数の店が軒を並べ、必要のない品物を買っていかい」とかいわれていた。しかしながら、流行だからといって必要のない品物まで追い求めるような行動は、少数の上流階級の人々にしかできないでいた。流行現象が全社会的に広まり、人々の衣生活ばかりか行動規範全般を支配するようになったのは、十九世紀になってからのことである。

E 日本では、流行現象はすでに江戸時代からあったとよくいわれる。武家のようにヒエラルキーの尊卑が最優先された社会では、服装の自由はむしろ制限されがちであった。ところが、町人階級では生地や色などの面で形式的には制限を強いながらも、実質的にはかなり自由な服装ができた。実際、売れっ子の役者の格好が町じゅうの人気を呼んだなどという流行現象が記録に残っている。たしかに、それはそのとおりのものであったが、やはり江戸時代においては、流行現象の規模は、明治以降と比べればごく小さなものであった。それは流行というよりもブームと呼んだけれうが、まさそうである。社会のほとんどすべての構成員を巻き込んで進行する継続的な社会現象としての流行とは、質を異にするものであったといわざるを得ない。そもそも流行現象が成立するための基本条件としては、社会的な流動性の可能性が少なくとも理念的、制度的に保証されていることが必要だからである。(北山晴一「衣服は肉体になにを与えたか」による)

* ヒエラルキー……ピラミッド型の階層組織。

問一 このようなミメティスム行動とはどのような行動のことか。本文中から十五字で書き抜きなさい。

問二 服装の自由が公に認められ、たとえ、どのような状況になったことか。「格好」「規制」の二語を用いて四十文字以上、五十文字以内でまとめなさい。

問三 C段落の最初の一文のはたらきとして適切なものを次から一つ選んで記号を書きなさい。

問四 そういう心理的な強制力が発揮された状態を表している箇所を、D段落から二十四字で書き抜きなさい。

問五 筆者が本文中で述べている内容と合っているものを次から一つ選んで記号を書きなさい。

A 全社会的に広まる服装の流行現象は、服装の自由が公に認められた社会における人間のミメティスム行動の現れである。

イ わが国の江戸時代における服装の流行現象は、服装の自由が理念的に保証されていた町人階級から他の階級へ広がった。

ウ 服装の自由が広く認められた社会において、社会秩序よりも経済活動が優先されたときに服装の流行現象は起きてくる。

エ 十八世紀初頭のバリでは制度的に服装の自由が認められ、服装の流行現象は全階層の人々の行動規範に大きく影響した。

四 次の①～⑩の漢字はよみがなに、⑪～⑳のよみがなは漢字に直しなさい。㉑点

- ① 熱い茶を所望する。 ② 社員の雇用を守る。 ③ 多くの犠牲を払う。
④ 所定の任務を完遂する。 ⑤ 乾いた荒野を歩く。 ⑥ 生活が墮落する。
⑦ 体裁を整える。 ⑧ 利益を貪る。 ⑨ 救済措置をとる。 ⑩ 球界屈指の打者。
⑪ 友人を食事にさそう。 ⑫ あやしい雲行きになる。 ⑬ 友達をやさしくはげます。
⑭ 床に倒れふす。 ⑮ 攻撃のきよてん。 ⑯ 敵の退路をたつ。
⑰ 復活をとげる。 ⑱ 指示をあおぐ。 ⑲ しんけん勝負。 ⑳ きかくを立てる。
㉑ 猫がネズミをとる。 ㉒ お中元のそうとう品。 ㉓ 遺跡のはつくつ調査。

解答用紙

組
番氏名

問一	①	イ	カ	①	一
問二	①	エ	ア	②	二
問四	①	この気もち		②	四
問五	ウ	ウ		②	五
問六	春日に	作者名	谷川俊太郎	②点×10点 ②0	六
問一	②	イ	カ	①	一
問二	②	イ	カ	②	二
問三	②	イ	カ	③	三
問四	②	イ	カ	④	四
問五	②	イ	カ	⑤	五
問六	②	イ	カ	⑥	六
問七	②	イ	カ	⑦	七
問八	②	イ	カ	⑧	八
問九	②	イ	カ	⑨	九
問十	②	イ	カ	⑩	十
問十一	②	イ	カ	⑪	十一
問十二	②	イ	カ	⑫	十二
問十三	②	イ	カ	⑬	十三
問十四	②	イ	カ	⑭	十四
問十五	②	イ	カ	⑮	十五
問十六	②	イ	カ	⑯	十六
問十七	②	イ	カ	⑰	十七
問十八	②	イ	カ	⑱	十八
問十九	②	イ	カ	⑲	十九
問二十	②	イ	カ	⑳	二十

問一	②	イ	カ	①	一
問二	②	イ	カ	②	二
問三	②	イ	カ	③	三
問四	②	イ	カ	④	四
問五	②	イ	カ	⑤	五
問六	②	イ	カ	⑥	六
問七	②	イ	カ	⑦	七
問八	②	イ	カ	⑧	八
問九	②	イ	カ	⑨	九
問十	②	イ	カ	⑩	十
問十一	②	イ	カ	⑪	十一
問十二	②	イ	カ	⑫	十二
問十三	②	イ	カ	⑬	十三
問十四	②	イ	カ	⑭	十四
問十五	②	イ	カ	⑮	十五
問十六	②	イ	カ	⑯	十六
問十七	②	イ	カ	⑰	十七
問十八	②	イ	カ	⑱	十八
問十九	②	イ	カ	⑲	十九
問二十	②	イ	カ	⑳	二十

問一	②	イ	カ	①	一
問二	②	イ	カ	②	二
問三	②	イ	カ	③	三
問四	②	イ	カ	④	四
問五	②	イ	カ	⑤	五
問六	②	イ	カ	⑥	六
問七	②	イ	カ	⑦	七
問八	②	イ	カ	⑧	八
問九	②	イ	カ	⑨	九
問十	②	イ	カ	⑩	十
問十一	②	イ	カ	⑪	十一
問十二	②	イ	カ	⑫	十二
問十三	②	イ	カ	⑬	十三
問十四	②	イ	カ	⑭	十四
問十五	②	イ	カ	⑮	十五
問十六	②	イ	カ	⑯	十六
問十七	②	イ	カ	⑰	十七
問十八	②	イ	カ	⑱	十八
問十九	②	イ	カ	⑲	十九
問二十	②	イ	カ	⑳	二十

①	しょう	①	四
②	こよう	②	二
③	ぎせい	③	三
④	かんすい	④	四
⑤	こうや	⑤	五
⑥	だらく	⑥	六
⑦	ていさい	⑦	七
⑧	むさぼる	⑧	八
⑨	そち	⑨	九
⑩	くっし	⑩	十
⑪	誘う	⑪	十一
⑫	怪しい	⑫	十二
⑬	励ます	⑬	十三
⑭	伏す	⑭	十四
⑮	拠点	⑮	十五
⑯	断つ	⑯	十六
⑰	遂げる	⑰	十七
⑱	仰ぐ	⑱	十八
⑲	真剣	⑲	十九
⑳	企画	⑳	二十
㉑	贈答	㉑	二十一
㉒	発掘	㉒	二十二
㉓	捕る	㉓	二十三